

## 広がっています!! 人と地球にやさしい「環境保全型農業」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、高知県環境保全型畑作振興センターを核とした「環境ISO実践農家グループ」の取り組みについて、紹介します。

高知県では、環境と調和した「人と地球にやさしい農業」の展開を通じて、食と環境と地域が調和した「環境農業県高知」の実現を目指しています。

これをリードするのが、四万十川の上流域、高岡郡窪川町にある「高知県環境保全型畑作振興センター」です。同センターは平成7年の設立以来、環境保全型農業技術の実証・展示や研修を通じ、県内の農家や農業団体などに対して「環境保全型農業」の普及・推進を目的に活動していますが、平成12年6月、環境マネジメントの国際規格「ISO14001」の認証を取得し、その普及促進にも力を注いできました。

そして、平成14年11月、同センターと県内9つの農家部会(336名)が一体となって、「ISO14001」の認証を取得し、環境ISOを実践する農家組織「環境ISO実践農家グループ」が誕生しました。

そのグループのひとつ「梶原町ISO推進営農研究会」は、四万十川の源流で、マルハナバチや、黄色蛍光灯、天敵などを使った米ナスの減農薬栽培に取り組み、化学肥料や化学農薬を減らし、環境への負荷を少なくする環境保全型農業を実践しています。グループの皆さんは「豊かな自然は私たちの宝です。これからも、地域の自然を守り、次の世代につなげるために、力を合わせて頑張りたい」と意欲的です。

また、同センターでは、「今後の農業を考えれば、環境問題を抜きにした生産活動は立ちゆかなくなると思います。四万十川流域をはじめ、県内の多くの農家さんに賛同いただいて、環境ISOや環境保全型農業の輪を拡げていきたい」と積極的な取り組みを進めています。

環境保全型農業は、四万十川流域の基本方向を示した「清流四万十川総合プラン21」にも定められています。四万十川の保全と流域の振興のためにも、流域全体で取り組みたい大切な課題です。

●問い合わせ 高知県環境保全型畑作振興センター TEL.0880-24-1015

URL <http://www.nogyo.tosa.net-kochi.gr.jp/kikan/kanpo>



▲認証取得した高知県環境保全型畑作振興センター



▲「梶原町ISO推進営農研究会」の皆さん。

### Topics

#### 《八田 哲スケッチ展》沈下橋・四万十の流れ展～196kmの自然美～

京都在住の日本画家・八田哲さんが、3年間かけて完成させた、本流21、支流10の沈下橋のスケッチ画を展示。四万十川の四季折々の風情を沈下橋とともに感じてみませんか。

■会期／7月15日(火)～7月20日(日) 午前10時～午後7時

■会場／ヨンデンプラザ中村 中村市大橋通6丁目9-21 TEL.0120-410-863